

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent・File」では、時代の趨勢となつている予防歯科への潮流の中で、日々活動されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。



愛媛県松山市にある、かめのご歯科では「歯科医院を好きになってもらいたい」と考える院長・亀井隆行先生と、管理栄養士の資格を持つ院長夫人が力を合わせ、母と子にフォーカスした独自の活動で地域に根付いた歯科医院経営を進めています。

一方では、開院以来取り組んでいる「訪問診療」も、個人の居宅、地域の高齢者施設を対象に、着実に継続しています。

歯と全身の健康を見据え、母子、高齢者を中心に地域歯科医療活動を続ける、開業6年目の亀井院長にお話を伺いました。

子どもたちを対象に歯科が行う 食育教室「キッズ・キッチン」

当院の特長的な活動として、子どもたちを対象とした食育教室である「キッズ・キッチン」があります。月に一度、子ども用に高さをあわせた院内のテストキッチンを使って行う当院のキッズキッチンでは、子どもたちが食材に触れ、親の手を借りずに自らの手で料理をします。料理だけではなく、使っている食材はここから採れて、どんな風にできているかというところから教えていきます。作るメニューは

歯科の観点から、噛む食習慣を身に付けてもらうために、根菜類などの硬いものも取り入れていきます。

参加する子どもは、ほとんどが3歳から幼稚園児まで。この時期の子どもは、自分でやりたいという気持ちがとても強く、「包丁を持たせるのは怖いけれども、やりたい気持ちも大切にしたい」という保護者の心を汲んだ活動でもあります。

キッズ・キッチンを始めたのは、もともと口腔と食べ物、噛むこととの結び付きは重要だと考えていたこともあり、一番大きいのは管理栄養士である妻の存在です。妻はキッズ・キッチン協会認定のインストラクター資格を持っており、この強みを歯科とリンクさせようと開業時に考えました。そして、これが「お母さんと子ども」を当院の主なターゲットとした一つの要因でもあります。最近の子どもは軟らかい食べ物ばかりを



「親子」へのアプローチを軸に、 地域の人々の健康に 貢献する歯科医院

かめのご歯科

院長 亀井 隆行 先生



行っていたものを、最近では利用者が増加したため、週2日に増やして行っています。



親子共々、歯科医院に来ることに抵抗がなくなると、治療が終わった後の予防やお子さんが大きくなるときの診療にも通ってもらえるようになります。そして、メインテナンスに通ってもらうくらい信頼を得るようになります。今度は「口」で他の患者さんと呼んでもらえます。当院に初診で来る患者さんのほとんどは「口」から。そして、その患者さんも治療からメインテナンスに通ってもらうという、とても良いサイクルができています。

目まぐるしい 診療の日々を照らす、 院長の楽しみは「訪問診療」

もともとボランティア活動には共感があり、利益優先でなく、人の役に立ちたい」という気持ちを持っていて、訪問診療はぜひやりたい分野でした。

訪問診療に行くのは、外来を休診している木曜日の午後と土曜日の午後。基本的に歯科衛生士とペアを組んで、施設や患者さんの自宅などへ赴きます。施設などに口腔

ケアに行く場合は、歯科衛生士だけで訪問する場合もあります。自宅の患者さんには、通院してくださっている患者さんのご家族が多いですね。

私は、大学卒業から開業するまで、いくつかの病院を経験してきましたが、口腔外科で学んだ「全身管理」の考え方は今でも役立つている知識です。特に訪問診療を行うとき、患者さんが服用している薬をチェックしたり、血圧を測ったりと、歯科だけでなく医科の領域からの情報も加味して患者さんの状態を把握し、歯科治療の判断をしています。

訪問診療では、う蝕治療や義歯調整、場合によっては抜歯なども行いますが、やはり一番の目的は口腔ケア。週に1回でも私たちが口腔ケアに入ること、患者さんの口腔内環境は劇的に改善します。口腔内環境が良くなり、しっかりと噛むことができるようになれば、脳が刺激されて全身の健康改善に繋がります。

私は訪問診療がとても好きです。来院できない人を治療し、ケアをすることにやりがいを感じますし、患者さんと会話できることが私の大きな楽しみの一つです。普段の外来では、次々に患者さんを診る必要があるため忙しく、患者さんと話す時間をあまり取れません。訪問診療なら、その患者さんのためにだけに時間が取れるので、ご家族やご本人と話す時間も作れます。私にとって訪問診療の時間は、患者さんと詳しく話せる貴重な機会であり、日々の忙しい診療の気分転換にもなっています。



いま来てくださる 患者さんを第一に、 今後も技術力の向上に奮闘する

当院は開業して6年が経ちました。6年間を振り返ってみると、とても順調に進んで歩んでこられたように思います。多くの患者さんに来院していただいていますし、「口」の力による患者さんの増加なども、思ったように推移していると感じます。

歯科衛生士を増やすことや医院の2階を利用して何かできないかなど、今後の計画も考えてはいますが、いまは当院に来てくださる目の前の患者さんを大切にすることに集中したいと思っています。それにはまず、しっかりと診断と説明をすること。治療計画も必ず患者さんの同意を得ながら進めていく。そうした誠実な診療をすることで信頼を得ることができれば、患者さんの定着や増加に繋がっていくと確信しています。

もちろん、これを実現するためには、的確な治療とメインテナンスなど確かな技術が大前提です。どれだけ器具や院内設備などのハードが良くても、肝心の診療技術やケア技術が良くなければ意味がありません。これからもより良い診療のために、技術向上にも患者さんとの交流にも全力で取り組んでいくつもりです。

亀井 隆行（かめい たかゆき）先生 プロフィール

兵庫県神戸市出身。2006年に岡山大学歯学部卒業後、岡山大学病院総合歯科に入職。その後、小川歯科医院（福山市）愛媛大学病院歯科口腔外科での勤務を経て、2010年にかめのご歯科を開業。現在に至る。日本歯周病学会、AFD未来歯会所属。

「この人によかった」と思われる 一人前の歯科衛生士に

歯科衛生士
津乗 真美さん



できることが増えて 仕事を楽しめる2年目

私は、歯科衛生士学校を卒業後すぐ当院に入職し、勤務し始めて2年目です。現在の主な仕事は、歯石取りや歯周病の検査、ホワイトニングなどです。もちろん訪問診療や、お子さんの相手もさせてもらっています。

仕事はとても面白く、特に、患者さんとのコミュニケーションの機会が多くあることは楽しく感じています。歯科医院は、「怖い」などマイナスなイメージを持たれがちですが、それを患者さんに感じさせないように工夫をしています。大切にしているのは、口の中だけではなく、会話の中からその人自身について深く知ることです。それは患者さんが通うモチベーションにも繋がっていきます。

現状で満足せずに 学びを重ねる

歯科衛生士学校で3年間十分に勉強してきたつもりでしたが、いざ現場に立つてみると、学校で習ったとだけでは全く足りないことに気が付きました。入職して始めの頃はとても大変でした。学生時代の実習で先生が

やるのを見て「簡単そう」と思っていました。簡単そうに見えたのは多くの経験があればこそ。実際に患者さん相手にやってみると、とても難しく、一筋縄ではいきませんでした。

自分の経験不足を感じてから、指先の感覚を掴むために何度も口腔内を触り、スケーリングを繰り返して、この1年で多くの経験を積みました。今では何か一つできるようなことが楽しく、やりがいを感じる瞬間でもあります。

現在でも勉強は欠かせません。気になるところは積極的に院長に聞いて、指導アドバイスを仰ぎます。院長の奥様は、私たちスタッフのために言葉遣いやマナーなどのセミナーへ頻繁に出かけ、そこで学んだことを共有してくれます。そして、非常勤の歯科衛生士は、私よりも遥かにベテランの先輩。先輩の診療を見学させてもらったり、細かいアドバイスをもらったりして学んでいます。

患者さんに求められる 歯科衛生士に

日々の仕事には慣れてきたとは言え、また2年目。今後の大きな目標としては、患者さんに「津乗さんが

担当で良かった」と思ってもらうことです。それには、患者さんを知るだけでなく、私自身を患者さんに知ってもらうことが必要です。お互いを知ることができるよう、今まで以上に意識して対話していこうと思います。

しかし、いくらコミュニケーションを頑張っても、技術がなければ口腔内の環境は綺麗にはなりません。技術面での目標は、時間の組み立てです。スケーリングでは、時間がかかってしまうことを問題に感じています。次の予約も考慮した時間配分をして、なおかつ正確に歯石を取り除くことができるように、速さと技術のバランスを身につけたいです。先生や先輩に恵まれたこの環境を生かし、努力を重ねて早く一人前になりたいと思います。

